

# 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名 (地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
登米市	登米地区 (旧迫町)	令和3年3月31日	令和3年3月31日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	3,508.4 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者の耕作面積の合計	1,875.3 ha
③地区内における70歳以上の農業者の耕作面積の合計	447.4 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	210.3 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	237.1 ha
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	542.7 ha

## 2 対象地区の課題

- ・基盤整備事業未実施地区の農地集積(新田地区(開田地帯)、佐沼地区(北散田、駒木袋等)など)
- ・水田の大半は30a区画に基盤整備済みだが、農業用機械の大型化により大区画への整備が必要
- ・経営主の高齢化により出し手農家が増加傾向
- ・団塊の世代の農業者が引退した後の円滑な経営継承
- ・若い年代の農業者の確保

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・対象地区内197経営体のうち、規模拡大希望の112経営体を中心にマッチングし、集積・集約化を進める
- ・新規就農者については、地域内での育成も進めていく

## 4 2の解決、3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

①農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は1,299筆、167.2haとなっている
②農地中間管理機構の活用方針 農地の貸し借りは、農地中間管理機構の積極的な活用を推進し、担い手農家の経営規模拡大と経営の安定を図る
③基盤整備事業への取組方針 ・受け手の作業効率の向上、集積・集約化推進のため、基盤整備事業の取組について随時検討していく ・暗きよ、用排水や区画拡大等の再整備についても随時検討していく
④その他(検討会での地区別の主な意見等) ・開田地帯に、景観作物の栽培や畜産を放牧するなど、多様で有効な土地利用について検討していく ・稲作、大豆、麦、牧草、園芸作物など、作物を分類しての団地化を検討していく ・団地化や大区画化できない農地は、ふれあい農園など老若男女問わず土に触れられる場とするなど、多様な農地の活用を検討していく